

国語科学習指導案

期 日：令和3年11月17日(水) 5校時
対 象：第3学年1組 計38名
指導者：教 諭 前園 奈津子

1 単元名 情報を関連づける

教 材 複数の情報を関連づけて考えをまとめる
論説「情報社会を生きる－メディアリテラシー－」
新聞記事の読み比べ（三省堂「現代の国語3」）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

近年の情報化社会の発達にはめざましいものがある。私たちの身の回りには常に膨大な量の情報があふれており、その関係性も密接になっている。こうした情報化社会に生きる子どもたちへの情報教育の必要性が叫ばれているが、その際に情報の入れ物であるメディアに関わる見方や考え方を深めることも必要不可欠なことである。

メディアは、必ずしも現実をそのまま発信しているとは限らない。それにも関わらず、現代を生きる私たちは、思考や思想を形成する際、無意識のうちにそういった情報に影響を受けている。そのため、メディアがどのような特性をもち、どのような意図によって情報を構築しているのかを理解することは、メディアと関わる上で重要なことである。主体的にメディアと向き合い、批判的視点から情報を精査するメディア・リテラシーは、情報化社会を生きる力として強く求められている。

そこで、本単元においては、生徒自身がメディアとの関わり方に関心をもつことができることを一つのねらいとしている。ここでの学習により、日常生活で主体的にメディアと向き合い、情報を批判的視点から精査する力へと発展していくことが期待できる。

(2) 教材観

ア 「情報社会を生きる-メディア・リテラシー-」には、次のような特性がある。

(ア) 本教材は、図表等の非連続型テキストと、文章による連続型テキストとを関連付けながら、情報を整理し、自分の考えをつくり、交流して深めることを意図して設定されたものである。

(イ) メディアの特性に対する理解とともに、情報の整理の仕方、情報と情報の関係付けの仕方を学ぶことができる。

イ 「新聞の読み比べ」には、次のような特性がある。

(ア) 現実そのものではなく、送り手の観点から捉えたものの見方である主張を、読み比べによって具体的に確認することができる。

(イ) 対照的な内容を対比的に読み比べることによって、それぞれの特徴が捉えやすくなり、構成や表現の仕方について評価する学習も行いやすくなっている。

(3) 生徒の実態

本学級の生徒は、快活で仲が良く、全ての活動において前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。学校行事なども、最上級生として学級や学校をけん引し、級友同士協力してやり遂げた。このように、互いに認め合い、思いやりがあるため、一方で、批判的に物事を受け止めるリテラシーの力がやや弱く、他者の意見を肯定的に受け止めて、うのみにしてしまう生徒も少なくはない。改善点を指摘し、建設的な対話を重ねながらよりよいものを練成していこうとする姿勢の育成が課題である。

国語の授業においては、学習課題解決のために個々に設定した「私の問い」の解決に向けて、丁寧に取り組む生徒が多い。意見や考えを交流し、相互評価・自己評価する場面では、友達の考えをもとに自分の考えを広げ、深める姿も見られた。

また、授業に関するアンケートを実施したところ、以下のような結果であった。

【アンケート結果】

	国語アンケート	3年()組()番名前()	
1	国語が好きである。()	はい	()
2	国語が得意である。()	はい	()
3	国語の分野で特に得意なものを選びなさい。(三つまで)	()	()
4	国語の分野で苦手なものを選びなさい。(三つまで)	()	()
5	あなたは新聞を読みますか？	()	()
6	あなたは1か月に何冊くらい本を読みますか？(教科書・漫画・雑誌を除く)	()	()
7	国語の授業でがんばりたいことを書きなさい。(自由記述)		

1 国語が好きである。	はい： 54%	いいえ： 46%			
2 国語が得意である。	はい： 24%	いいえ： 73%	どちらともいえない： 3%		
3 得意分野	ア：33%	イ：24%	ウ：33%	エ：12%	オ：12%
	カ：30%	キ：15%	ク：21%	ケ：21%	
4 苦手分野	ア：45%	イ：66%	ウ：39%	エ：57%	オ： 3%
	カ：21%	キ：18%	ク：15%	ケ： 6%	
5 新聞を読むか	ア： 9%	イ：15%	ウ：21%	エ： 54%	
6 月の読書量	0冊：15%	1冊：25%	2冊： 9%	3冊： 5%	4冊： 5%
	5冊：15%	6冊： 5%	8冊： 3%	10冊：15%	10冊以上：3%
7 授業で頑張りたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇しっかりと授業を受けて、少しでも成績を上げたい。 ◇小説文に強くなる。 ◇読解をがんばりたいです。 ◇古典を読み、意味を理解すること。 ◇漢文を読む。 ◇漢字をたくさん覚える。 ◇本を好きになる。 ◇話を聞く。 ◇全てをがんばりたい。 ◇古典などの読解をがんばりたい。 ◇古典をすらすらと読めるようになりたい。 ◇自分の苦手な分野を少しでも得意にできるように頑張りたいと思います。 				

【考察】

質問1でわかるように、国語を好きな生徒が過半数いるものの、質問2で「得意だ」と思っている生徒は「好きだ」と答えた中の半数以下である。質問7の自由記述と関連付けると、国語が苦手だと感じながらも、その苦手を克服したい、頑張りたいと考えている生徒が多くいることがわかる。

また、質問3・質問4で国語の得意分野・苦手分野を尋ねたところ、説明文の読解に苦手意識をもっている生徒が多くいることがわかった。そこで、この単元を通して文章を批判的に読む力を身に付けさせ、情報をうのみにせず、的確に受け取ったり伝えたりするリテラシー能力を培うことで、苦手意識を払拭させるとともに、これからの情報社会を生きる力を備えさせたい。

(4) 学校課題との関連

情報を集めるという視点をもって文章を読み、さらにその情報を自ら選択し、整理して、わかりやすく伝えるために工夫することは、学校課題の「『自ら学び、自ら考える力』の育成」につながるものと考えられる。

(5) 指導観

本単元では、「メディアが伝える情報は、現実が再構成された恣意的なものである。」と指摘し、「情報社会を生きる私たちは、メディアがもたらす利点と限界を把握するためのメディアリテラシーを身に付け、私たち自身で情報社会を作る必要がある。」と筆者は述べている。

そこで第一次では、メディアの特性を踏まえ、どのように情報と向き合えばよいかを考える機会を設けた。「情報社会を生きる」から筆者の主張を読み取るとともに、メディアについて説明している語句の効果的な使い方を捉えることができるようにする。ここでは内容理解のために、メディアの利点と限界が書かれている段落を探して読み取る活動を設定する。

第二次では、「富士山の山開きを報じた新聞記事A・B」を読み比べ、伝えられた情報がどのような視点から切り取られたものなのかを分析していく。同じテーマを扱っていても、情報の発信者の意図によって伝わり方に違いがあるということを理解させ、様々な観点から批判的に読み取らせていきたい。

今回の授業では、第一次の学びを基に、知識及び技能(2)情報の扱い方に関する事項(ア)「具体と抽象など 情報と情報との関係について理解を深めること」を踏まえ、思考力、判断力、表現力等C読むこと(1)イ「文章を批判的に読みながら、文章にあらわれているものの見方や考え方について考えること」、ウ「文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること」、エ「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」の指導の充実を図りたいと考える。

3 単元の指導目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深める。【知・技(2)ア】
- (2) 情報の信頼性の確かめ方を理解し使う。【知・技(2)イ】
- (3) 文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉える。【思・判・表C(1)ア】
- (4) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ。【思・判・表C(1)エ】
- (5) 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する。【思・判・表C(1)ウ】
- (6) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える。【思・判・表C(2)イ】

【学習課題】

この単元では、複数の情報を関連付けて読み、自分の考えをもつ学習をします。
 資料A「情報社会を生きる」を読んで課題をつかみ、資料B新聞記事で多様な考え方に触れ批判的に読み、資料A・Bを関連付けて情報と適切に関わって生きるために大切だと思うことをまとめましょう。

〈問いの例〉

- 筆者は情報社会を生きるためにどんなことに気を付けるべきだと述べているだろう。
- 筆者は情報社会の利点と限界を何だと述べているだろう。
- 新聞記事はそれぞれどのようなことを強調しているだろう。
- 私たちは情報社会をどのように生きるべきだろう。

4 指導計画と評価規準

時	ねらい	学習活動	評価の観点	評価項目		
				十分満足	おおむね満足	支援
1	内容に関心を持ち、学習活動の見通しを立てる。	1 話題に触れる ・「メディア」と聞いて思い浮かぶことは何だろう。 2 全文を通読する。 3 学習課題を提示する。 4 単元計画表を元に、学習の見通しをもつ。	主体的に学習に取り組む態度 思・判・表	内容に関心をもって読み、学習課題を解決するための「私の問い」を立てることができる。	学習課題を理解し、「私の問い」を立てることができる。	「問い」の例を示し、「私の問い」を立てさせる。
2	資料A「情報社会を生きる」を読んで、メディアとの関わり方について筆者の考えを捉える。	1 学習活動を確認する。 2 資料Aの文章構成を捉える。 3 具体と抽象など、情報と情報との関係に注意しながら、筆者の考えを読み取る。	思・判・表	文章の構成を的確に捉え、筆者の意図を理解しながら読んでいく。	事実と意見を読み分けて、構成をとらえようとしている。	メディアの「利点」と「限界」について述べている箇所や主張に線を引かせる。

時	ねらい	学習活動	評価の観点	評価項目		
				十分満足	おおむね満足	支援
3	資料B二つの新聞記事を読み比べ、多様な考え方に触れる。	1 学習活動を確認する。 2 二つの新聞記事を比較し、相違点や強調の工夫を捉える。 3 資料Aと関連づけて、メディアリテラシーのポイントを押さえる。	思・判・表	資料から情報を選択し、整理してわかりやすく伝える工夫をしている。	グループの課題にあった資料を選び、的確にまとめている。	課題に合った資料を提示する。
4 本時	情報社会のよりよい生き方について、自分の考えを書く。	1 学習活動を確認する。 2 資料A・Bを関連付けて、情報と適切に関わって生きるために大切だと思うことをまとめる 3 下書きを推敲する。 4 推敲を元に仕上げる。	知・技 思・判・表	文章を読んで考えを広げたり、深めたりして、自分の考えや意見を表現することができる。	文章を読んで考えたことを表現しようとしている。	モデル文を確認させ、資料をふまえて自分の考えをもたせる。
5	相互評価・自己評価をして学習のまとめをする。	1 学習活動を確認する。 2 自分の考えを班で交流する。 3 友達の考えも踏まえて振り返りをする。 4 問いの答えを書き、学習のまとめをする。	思・判・表 主体的に学習に取り組む態度	友達と考えを交流し興味・関心を広げることができる	友達の考えを聞いて感想を書くことができる。	新たにわかった事実とそれに対する感想を記すよう支援する。

5 本時（4／5）

(1) 本時の目標

- ① 友人の意見文がより良いものになるように批判的に読み、観点に沿った推敲ができる。
【思・判・表C(1)ウ】
- ② 友人の意見も踏まえて推敲に取り組み、自分の考えを書くことができる。
【思・判・表C(2)イ】

(2) 本時の展開

過程	学習活動	時間	○指導上の留意点 / ※評価
導入	1 学習課題を確認し、前時までの学習を想起する。	1	○ 前時で記入したワークシートを確認させこれまでの学習活動を振り返らせる。 ○ 本時の流れを示し、見通しをもたせる。
	2 本時の目標と学習活動を確認する。	4	
推敲の観点を意識して班で文章を交流し、自分の考えをより良くまとめよう。			
展開1	3 前時の活動を確認し、グループで話し合う。 ※ 推敲の観点 ① 文章構成（三つの型） ② 主張を支える事実と理由 ③ 自分の考えの明確さ ④ 必要な情報の引用 ⑤ 語句や表現の工夫	25	○ 活動が効果的に行われるよう、推敲の観点を提示する。 ○ 机間指導において、活動が滞っている生徒・グループについては、提示した観点について、再度説明を加える。 ○ ロイロノートを使用させ、話し合いの効率化を図る。 ※ 推敲の観点到に沿って話し合いを進めることができたか。 ※ 原稿を仕上げるうえで、推敲のポイントを把握することができたか。
展開2	4 話し合いを基に、文章を仕上げる。	15	○ 教科書の資料やモデル文を参考にして、推敲の内容を選択しながら仕上げさせる。 ※ 構成や表現の仕方など、推敲の内容を選択しながら書くことができたか。
終末	5 学習の振り返りをする。 ※ 振り返りの観点 ① 自分の文章を推敲して ② 友達の文章を推敲して ③ 清書に生かすこと	5	○ ワークシートに振り返りをさせる。

(3) 本時の評価

ア 友人の意見文がより良いものになるように批判的に読み、観点到に沿った推敲ができたか。

【思・判・表C(1)ウ】

イ 友人の意見も踏まえて推敲に取り組み、自分の考えを書くことができたか。

【思・判・表C(2)イ】